



「どんな職種も介護職」のため、事務員、施設長、管理栄養士、理学療法士(左上、右上、左下、右下)も介護職として動く

おはよう ウォッチング🔍

いつまでも

「のんびり、ゆったり、ほがらかに」

暮らしていただくために

〔 社会福祉法人 信愛
滋賀県長浜市

特別養護老人ホームまんてん塩津/
グループホームまんてん塩津 〕



自分仕様の居室

GHまんてん塩津



手すりをつけずここに手をつけて歩くよう設計



家にあるような食器棚



くつろげる和室スペース

特養まんてん塩津



「家」のようなユニットの入り口



手すりにみえない手すり

ハードの特徴

介護が必要になり、施設に入居するようになって、自分の家と同じようにのんびりゆったり過ごしたいと思う人は多いのではないだろうか。まんてんでは、「のんびり、ゆったり、ほがらかに。いつまでも自分らしい生活のお手伝い」という運営理念を掲げ、施設を「家」と捉え、利用者がなごやかに暮らせるように、さまざまな取り組みを行っています。

ハード面の工夫

平成17年4月、繊維工場を経営していた山田一之統合施設長

（以下、山田施設長）が、その跡地を活用し、湖北地方初のグループホームとして、グループホームまんてん塩津（以下、GHまんてん塩津）をオープンしました。山田施設長は、全国のさまざまな施設を見学し、利用者が「家」として過ごせるような居心地の良い空間を模索しました。そのため、和室にこた

つ、家庭にあるような食器棚、陶器の食器など、まさに家そのもの。また、普通の家には手すりがないことから、手すりをつけずに歩けることができる工夫をしています。その後、21年12月にまんてん小谷（グループホーム・小規模多機能型居宅介護・認知症対応型デイサービス・居宅介護支援事業所）がオープン。24年6月にGHまんてん塩津を1ユニット増築し、24年7月にGHまんてん塩津の隣に地域密着型の特別養護老人ホームまんてん塩津（以下、特養まんてん塩津）がオープンとなりました。

愛のあるスパルタ教育

「家」としての生活同線を配慮し、心理学を応用したカラーリングとインテリアを施しました。また、家では裸足で過ごすことが多いため、居室以外に床暖房を整備するなど、裸足で生活できる環境を整えました。特養まんてん塩津でも、「手すりにみえない手すり」を採用。このような工夫から施設とは思えない、落ち着いた空間になっています。

平成17年4月、繊維工場を経営していた山田一之統合施設長（以下、山田施設長）が、その跡地を活用し、湖北地方初のグループホームとして、グループホームまんてん塩津（以下、GHまんてん塩津）をオープンしました。山田施設長は、全国のさまざまな施設を見学し、利用者が「家」として過ごせるような居心地の良い空間を模索しました。そのため、和室にこた

つ、家庭にあるような食器棚、陶器の食器など、まさに家そのもの。また、普通の家には手すりがないことから、手すりをつけずに歩けることができる工夫をしています。その後、21年12月にまんてん小谷（グループホーム・小規模多機能型居宅介護・認知症対応型デイサービス・居宅介護支援事業所）がオープン。24年6月にGHまんてん塩津を1ユニット増築し、24年7月にGHまんてん塩津の隣に地域密着型の特別養護老人ホームまんてん塩津（以下、特養まんてん塩津）がオープンとなりました。

常にプラス思考で考えるよう指導しています。仲の悪い人同士を遠ざけるのではなく、仲良くできるよう工夫し支援する。生活の場として楽しく過ごせるよう環境を整えるのも私たちの役目です



副理事長で統合施設長の山田一之さん

利用者全員が普通の生活を送れるように支えていきたいです



法人本部事務局長の山田弥香さん

私たちは、ここで人生の総まとめの時を共に暮らし、「どう生きるのか」一緒に考え、支え、引き受けます。そして…生き方を学びます



特養ホーム長の杉林美由紀さん

日によって、できることできないことがあるので、常に表情を見て、やっていただけるようにわかりやすく表現するように心がけています



グループホーム長の友廣紀子さん



グループホーム計画作成主任の中西裕専さん

こちらが急いでいると、表情や口調から利用者は敏感に察するので、穏やかな気持ちで過ごしていただけるように、気をつけています

利用者は体調や様子、どんなことを考え、何を望んでいるか、その時その時で変化していきます。深くかかわったほうがいいのか、見守るだけでいいのか、様子を見ながらかわるようになっていきます



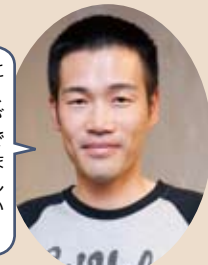
グループホーム管理主任の高山富寿さん



特養の看護師の森朝美さん

すべてにおいて、皆とコミュニケーションをとることが大切です

利用者の生活に入っていくことで、どういうリハビリが必要なのか、肌で感じることが出来ます。生活に密着したリハビリをしたいです



特養の理学療法士の中村忠さん

GHまんでん塩津



お茶を入れる人、運ぶ人。その時できる人がやっている



食事作りも分担

特養まんでん塩津



スーパーにて買い物



買った材料をユニットで下ごしらえ



美味しいおでんの出来上がり。ユニットでわいわい食べる

いる時は必ずその時に理由とともに指摘をしているとのこと。「言わなければその行為を認めたことになるので、必ず指摘します」と山田施設長。

また、まんでんでは冒頭に述べた運営理念とともに、「ま

んでは、施設ではありません。ひとが集

い、なごやかに暮らす『家』です」という

施設整備理念があります。これはまんでんでの暮らしの判断

基準となり、悩んだ時「それは『家』で行

われることなのか？」と考

えて利用

者の暮らしをつくっていきます。

この考えはともわかりやすく

職員を注意する時にも「君は家

でこういうことをやっている

の？」と問いかけるだけで、その

答えが明確になります。

これらの教育もすべて職員への

愛情があつてこそ、職員もそれ

を実感しているので、定着率は

とても高いそうです。

「思考の過程」を教える研修

多くの施設の職員研修は、介護技術や医療知識などの知識の習得ではないでしょうか。まんでんで行われる月1回の職員研修では、先駆的なケアを行っている施設の施設長や「大逆転の痴呆ケア」で有名な和田行男さんなどの介護界の著名人などをお呼びし、話を聞きます。

徹底した採用方針

これは、そういった人たちの話を聞いて、どのように自分の中で消化し、日々の介護に活かしていくかに重点をおいた研修です。「常に利用者の状態は変化するので、臨機応変に動かなければいけません。ですので、研修では『思考の過程』を教えることを重視しています。考え方を勉強してほしいのです」と山田施設長は言います。毎月、職員15人ほどの前で介護界の著名人がお話しされるということ、なんとお賢な研修です。



特養のリーダー 左東野伸彦さん「おしつけにならないように、常に本人の意向を聞いています。していただいたことには必ずお礼を言っています」
右西山員広さん「家でしていたことをここでも継続できるように支援していきたいです。忘れてしまっても、少しお手伝いするだけでできることがたくさんあります」



左調理師の長谷川清隆さん「懐石料理の店で24年程働いていたので、ここでは使う食材が違い戸惑うこともありましたが、基本的な調理方法は変えていません」
右管理栄養士の高山真由美さん「みそ汁やお好み焼きなど、ユニットで作れる物を多く取り入れています。一緒に作るとアドバイスをいただいたり、美味しさを共有できて楽しいです」

Profile



特別養護老人ホームまんてん塩津

〒529-0704
長浜市西浅井町塩津1123番地
TEL. 0749-88-8031
FAX. 0749-88-8034
開設 ● 平成24年7月
定員 ● 29名(平均要介護度3.3)
職員構成 ● ホーム長1名、看護職2名、介護職14名(常勤8名、非常勤6名)、管理栄養士1名、理学療法士1名



グループホームまんてん塩津

〒529-0704
長浜市西浅井町塩津中270番地
TEL. 0749-88-8032
FAX. 0749-88-8034
開設 ● 平成17年4月(平成24年7月に1ユニット増築)
定員 ● 18名(平均要介護度3.0)
職員構成 ● ホーム長1名、看護職1名、介護職17名(常勤9名、非常勤8名)



虎御前山から望む県最高峰の伊吹山。絶景にみんな釘づけ



ファミリーレストランでは自分で選び、食事を楽しむ

グループホームでの少し遠出の外出

小谷城入口→虎御前山→ファミリーレストランの約3時間のコース



おしゃれにも気合が入る



小谷城入口。大河ドラマの影響で一躍有名に

全員が介護職

面接時に必ず確認することが「どんな職種でも介護職」ということ。看護師、理学療法士、管

理栄養士、事務員も必要に応じて介護職として動きます。事務員が利用者と一緒に買い物に行ったり、管理栄養士が食事介助をしたり、理学療法士が排泄介助をしたり、看護師が入浴介助をしたり…。一見したところ、いや、数時間いても、専門職種がわかりません。どの職種も介護をするのが当たり前の環境であるため、特に意識することなく他職種連携がはかれているようです。

「ここに合わない人は『無理』と表情に現われてきますすし…」と話すのは特養まんてん塩津のホーム長である杉林美由紀さん。管理者からも好評の採用方針です。

まんてんでほがらかに生活している利用者を見て、その素敵な表情を引き出すには、職員一人ひとりの力量によるところが大きいのだとあらためて実感しました。今、介護現場で課題となっている答えが、まんてんの取り組みを通して見えたような気がします。(取材:編集部 撮影:浅田悠樹)